

令和 1 年度事業報告書

(平成31.4～令和2.3)

介護老人福祉施設

特別養護老人ホーム遠賀園

1. 活動状況

(1) 入退所者数

令和元年度の新規入所者数は20名、退所者数は21名であった。

令和2年3月末日現在の入所者数は男性16名、女性33名、計49名となっている。

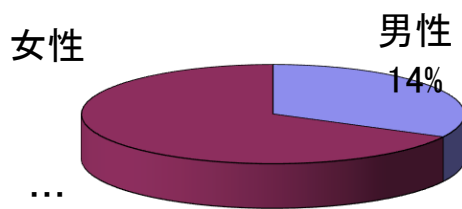
また平成23年度より実施している看取り介護件数については令和元年度は1件(ユニット含めた全体では1件)であり、看取り開始以降の累計件数は45件となっている。(看取り介護実施者で最終的に病院搬送した方除く)

月	退所者数	入所者数	月末在籍数	男性	女性	看取り
4	1	1	50	12	38	0
5	3	1	48	12	36	0
6	0	2	50	13	37	0
7	1	0	49	13	36	0
8	2	2	49	13	36	0
9	2	2	49	14	35	0
10	2	2	49	15	34	0
11	0	1	50	15	35	0
12	6	0	44	12	32	0
1	1	6	49	16	34	0
2	0	1	50	16	34	0
3	3	2	49	16	33	0
計	21	20				0

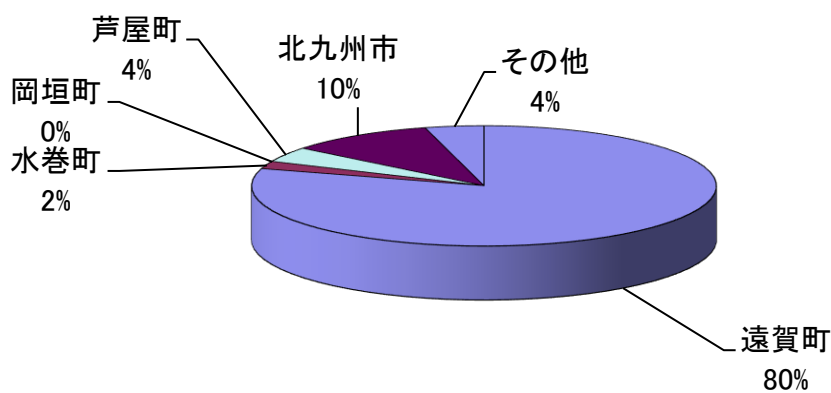
(2) 市町村別入所者状況 (令和2年3月末日現在)

市町村	遠賀町	水巻町	岡垣町	芦屋町	北九州市	その他	計
人数	39	1	0	2	5	2	49

入所者男女比



入所前住所地比

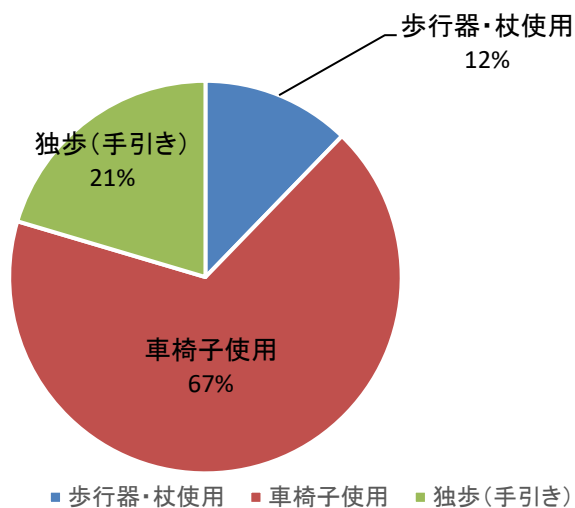


(3)入所者の身体状況（令和2年3月末日現在）

疾患名	脳疾患	心疾患	呼吸器疾患	視力聴力障害	糖尿病	高血圧	パーキンソン病	認知症のみ
人数	25	23	2	7	9	19	4	6

歩行方法	歩行器・杖使用	車椅子使用	独歩(手引き)
人数	6	33	10

歩行方法



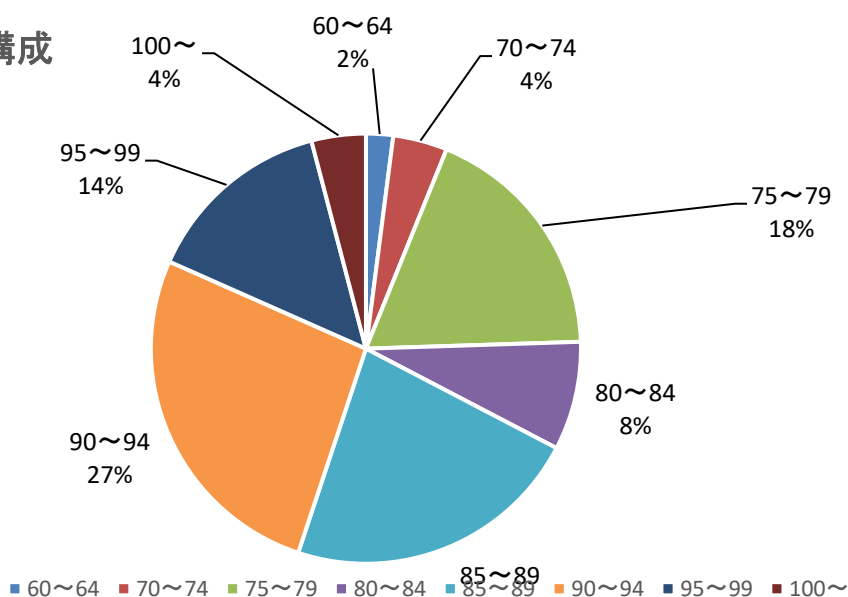
(4)入所者の年齢（令和2年3月末日現在）

年齢	60～64	70～74	75～79	80～84	85～89	90～94	95～99	100～
男	1	0	5	0	3	3	3	1
女	0	2	4	4	8	10	4	1
合計	1	2	9	4	11	13	7	2

・平均年齢が昨年度末に比べ下がってる

最大年齢	100歳7ヶ月
最小年齢	63歳2ヶ月
平均年齢	87歳1ヶ月
(参考H30年度)	
平均年齢	88歳4ヶ月

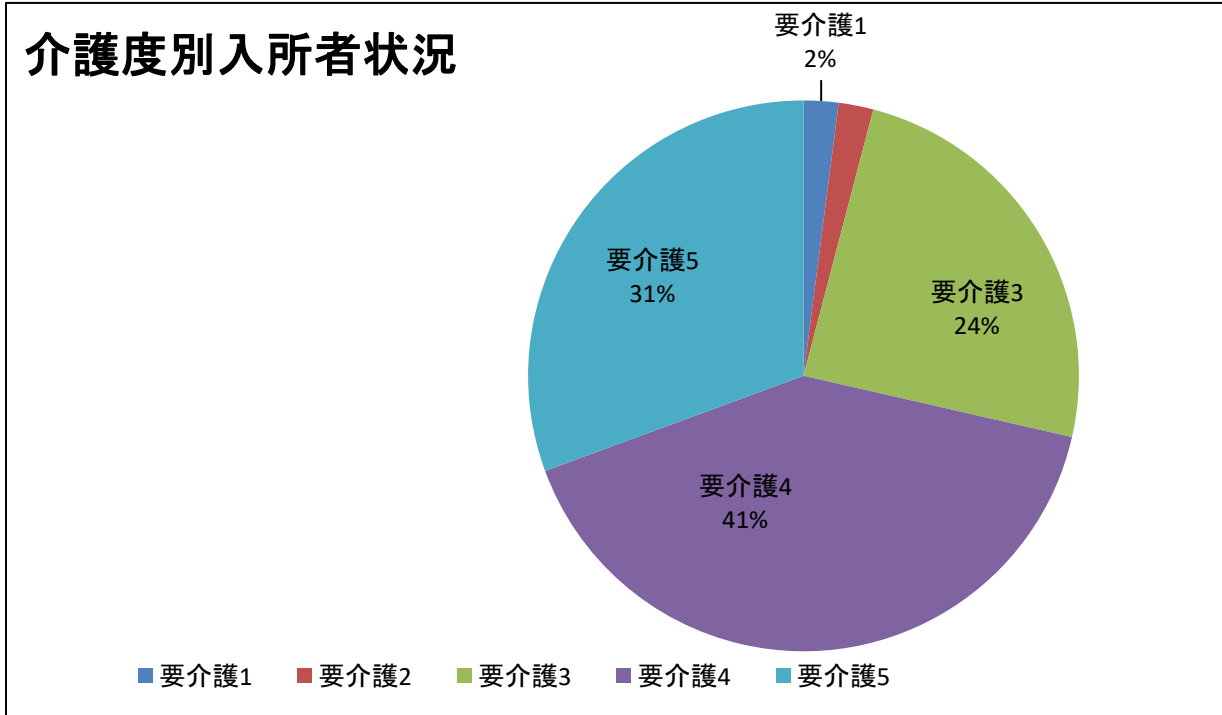
入所者年齢構成



(5)入所者の要介護度状況（平成31年3月末日現在）

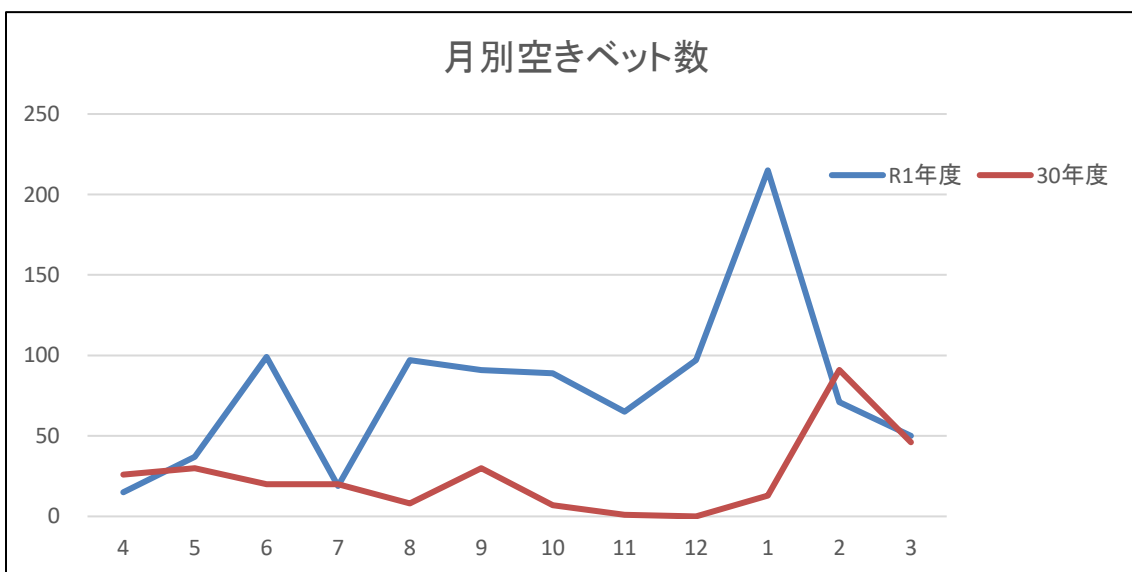
	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計	平均介護度
R1年度	1	1	12	20	15	49	3.96
30年度	1	1	9	23	16	50	4.04

・平均介護度は昨年度末に比べ下がっている



(6)入床状況

①令和元年度月別空きベッド状況(ショートステイを含む)



・入所者の空きベッド数は前年度と比較し増加傾向。

※月平均空きベッド数：H30年度⇒24.3(1日平均0.8)、R1年度⇒78.8(1日平均2.6)

②年間入床率

年度	入床率	対前年比
R1年度	95.7%	-3.0%
H30年度	98.7%	

・入床率は昨年度より増えている。

・入所率の低下(空きベッドの増加)に対しては従来通り、空きベッドの効果的な利用のために在宅ケアマネ(他事業所含む)

と連携し、ショートステイ利用希望者の積極的な受け入れを行う。

(6) 事故発生状況(短期入所を含む※()内は短期入所の利用者の事故件数)

① 行政報告件数(行政の事故報告ガイドラインに定めた件数)

	転倒・転落	皮膚剥離	誤薬・服薬忘れ	挫傷・打撲	異食・誤嚥	離園	その他	合計
R1年度	2	1		1			1(1)	5

② 事故報告件数総計(内部報告数含む)

	転倒・転落	皮膚剥離	誤薬・服薬忘れ	挫傷・打撲	異食・誤嚥	離園	その他	合計
R1年度	36(10)	10(3)	9(4)	4	3	0	1(1)	63
H30年度	56	22	5	7	4	5	2	101

事故発生状況は全体の事故件数としては昨年度と比較し、約4割の減少となった。事故内容別に見ると例年通り、転倒・転落事故が最も多く全体の半数以上を占めている。また皮膚剥離や打撲等は前年度と比較して、かなり減少しているが、誤薬・服薬忘れが倍増しており(特に短期入所利用者の服薬関係事故が増えている)、特に短期入所利用者の服薬管理を最優先に再度服薬ミス防止対策検討したい。

ショート利用者や重度の認知症の方、問題行動のある方等も増えているが、日常のケアの中に様々なリスク対策を講じ、周知させることが出来るかが重要であり、また事故発生要因を時間をかけて検証し、如何に効果的な対策を講じ、仕組みづくり(ルール化・習慣化)に繋げていけるか、現場のリーダーと連携して意識付けを図りたい。

なお、転倒・転落防止対策については、危険性に応じてご家族と情報共有し、身体拘束の要否も含めて、関係者との協議機会を一層増やしていく必要があると考える。

(7) 実習生受け入れ(併設特養と共通)

R1年度	人数	受入先	実習内容
4月	1	後藤寺さくら園	喀痰吸引実地研修
5月	1	岡垣町社会福祉協議会	喀痰吸引実地研修
	3	職業訓練校(株)アイコンズ	実務者研修(施設介護実習)
8月	1	福岡県立遠賀高校	インターンシップ
	2	九州栄養福祉大学	管理栄養士養成施設実習
	2	九州女子大学	管理栄養士養成施設実習
9月	2	麻生医療福祉&観光カレッジ(福岡校)	社会福祉士養成施設実習
	2	九州女子大学	管理栄養士養成施設実習
10月	2	麻生医療福祉&観光カレッジ(福岡校)	社会福祉士養成施設実習
	1	麻生医療福祉&観光カレッジ(戸畑校)	介護福祉士養成施設実習
12月	1	職業訓練校(株)アイコンズ	実務者研修(施設介護実習)
1月	1	麻生医療福祉&観光カレッジ(福岡校)	社会福祉士養成施設実習
2月	1	麻生医療福祉&観光カレッジ(福岡校)	社会福祉士養成施設実習
3月	2	職業訓練校(株)アイコンズ	職業訓練校施設実習
	1	平岡栄養士専門学校	栄養士養成施設実習
合計	22		

(8) 地域との交流活動実績(回数)(併設特養と共通)

活動内容	件数	備考
① 小学校・保育園交流(受入)	4	保育園(3)、小学校(1)
② 傾聴ボランティア受入	9	遠賀町社協主催
③ 慰問(地域ボランティア団体・家族会他)	8	
④ 地域行事への参加	3	敬老会、福祉祭り、文化祭
⑤ 当事業所行事のボランティア受入	4	花見、秋祭り、紅葉見学、餅つき
⑥ 事業所見学会受け入れ	1	特養照陽園
⑦ 地域交流(合同行事)	6	浅木カラオケクラブ

合計	35	
----	----	--

地域との交流については事業所行事におけるボランティア団体の参加を含め、ほぼ毎月1～2件程度行われており、遠賀町の傾聴ボランティアや家族会による慰問の主体(団体、形態)も年々増加してきている。

(9) 研修実績(併設特養と共通)

研修内容	回数	参加人数	備考
①社外研修			
・外部機関主催研修(県社協他)	65	92	
・他施設見学、施設間勉強会等	3	6	
②社内研修			
・社内講義、勉強会(運営会議時)	11	全職員	
・療育音楽勉強会他	1	10	

社外研修については前年度と比較し、参加機会及び参加者数も減少したが、地域主催(遠賀町、医療機関等)の研修機会は増加傾向にあり、身近に参加できる地域の研修機会を利用し、多くの職員の研修参加機会の増加につなげたい。

(10) 主な行事等の実施状況(併設特養、短期入所と共通)

4月	8日	花まつり	11月	3日	文化祭
	8日	傾聴ボランティア		7日	行政指導監査
	14日	喫茶		8日	赤星先生(療育音楽)来園
	15日	浅木カラオケクラブ慰問		11日	傾聴ボランティア
	21日	誕生会		13日	南部保育園交流会
5月	5日	子供の日		15日	喫茶
	13日	傾聴ボランティア		20日	紅葉見学(英彦山)
	12日	母の日・誕生会		23日	ともしび会慰問
	14日	ともしび会慰問		24日	誕生会
	19日	喫茶		28日	浅木小学校交流会
6月	3日	傾聴ボランティア	12月	3日	傾聴ボランティア
	16日	父の日・誕生会		6日	青い麦の会慰問
	17日	浅木カラオケクラブ慰問		7日	餅つき
	23日	喫茶		8日	喫茶
7月	1日	傾聴ボランティア		10日	遠賀川保育園交流会
	14日	喫茶		11日	やまびこ保育園交流会
	17日	指定更新・現地確認		16日	浅木カラオケクラブ慰問
	28日	誕生会		22日	クリスマス会・誕生会
8月	11日	喫茶	1月	11日	鏡開き
	13日	初盆参り		19日	喫茶
	19日	浅木カラオケクラブ慰問	2月	26日	誕生会
	25日	誕生会		3日	節分
9月	2日	傾聴ボランティア			傾聴ボランティア
	8日	喫茶		17日	浅木カラオケクラブ慰問
	16日	敬老会			喫茶
	28日	秋祭り・誕生会		23日	誕生会
10月	5日	夜間合同防火訓練	3月	24日	朝日気功慰問
	6日	喫茶		12日	喫茶
	7日	傾聴ボランティア		29日	誕生会
	20日	福祉まつり			※コロナウィルス対応のため、
	21日	浅木カラオケクラブ慰問			地域行事は全て中止
	27日	誕生会			
30日	ひまわり会慰問				

2. 実績

(1) 事業活動収支状況

単位:円

	H30年度	R1年度	差異	備考
収入	189,240,340	193,625,120	4,384,780	
支出	220,269,748	204,041,767	-16,227,981	
収支	-31,029,408	-10,416,647	20,612,761	

(2) 収支増減要因

① 収入増加要因

・上期は長期入院の減少に伴う利用者数の増加、下期は特定処遇改善加算取得に伴う介護報酬の増加によるもの

② 支出減少要因

・人件費の減少によるもの